◇地域活動報告◇

渡名喜村におけるヒトエグサ養殖指導

瀬底正武

1. 課題名

渡名喜村におけるヒトエグサ養殖指導

2. 現　状

当地域の漁業は、明治37年にカツオ漁業の操業開始によって、唯一の換金産業として発展したが、漁獲不振によって廃業に至り、現在では小型漁船による一本釣を主体とした漁業形態となっている。

近年、漁獲の減少に加え魚価の低迷、後継者不足という難題を抱え、これらを克服するため沿岸漁業の推進による、明るい漁村作りが大きな課題となっている。

3. 指導の目的

漁業者は、若年層の参入がなく、年々高齢化しているため、生産力は衰える傾向にある。そういったことに鑑み、高齢者でも養殖生産の担手として、十分活動していけるヒトエグサ養殖を推進し、島の産業振興に寄与することを目的とする。

4. 指導の方法

基本的には、『種付け―種網洗浄―生育管理―本張り―収穫』といった一連の養殖手法＋管理についての指導を徹底して行なう。

具体的には、(1)イノー周辺における、最適採苗場所の選定と高さ、(2)本張り場所の位置の選定と網の高さ、(3)N張り（いわゆる捨て網による生育層の調査）、(4)寒年と暖冬ぎみの場合の種網の取扱いについて、直接現地において調査、実践指導に当る。指導は、『渡名喜村漁協アオサ養殖生産部会』メンバー15名を対象に実施した。

5. 指導結果

渡名喜島は、周囲12.5㎞でやや三日月形をなし、ヒトエグサの養殖は東側に面した比較的広いイノーを中心に、島周辺6ケ所に特区漁業権が設定されている。

調査指導を、11月から2月にかけて実施し下記の成果を得た。

(1) 採苗場所をイノーの西側から北東寄りに移動した。

(2) 採苗時の網の高さ70㎝を50㎝に低目にした。

(3) 本張りの位置を北西から北東寄りのほぼ中央に移動した。

(4) 本張りの高さは30㎝と、さらに低目にした。

＊今期の生産量は、網数が150枚の内120枚について、収穫した。30枚については、調査網、捨て網として使用した。

＊3月16日までに、3回収穫で1.5トン（生）生産された。収穫しきれず流失藻体含めると2トン前後の生産が見込まれた。（一本釣と兼業のため収穫不十分）

＊収穫方法は、当初ハサミ収穫を行なっていたが、あまりにも時間がかかり過ぎるため、2月23日に当養殖生産部会長上原氏、同副会長比嘉氏、上原組合長の3氏に北中城養殖現場に来ていただき、『イマムラ式ノリ摘み機』の取扱いについて、講習、交流会を開催した。交流の成果を踏まえて、翌24日にはさっそく摘み機を購入（同型の摘み機を同村の熱田工業所で製作・1式29万7千500円）し収穫の省力化を図る。ちなみに、1枚収穫するに要する時間は、2分間であった。

＊収穫後の処理は、海藻類の処理加工場が、平成6年度防衛施設庁予算で完成している。機器類等については、『収穫―洗浄機―選別機―脱水機―ホグシ機―冷風乾燥機―原料保存用冷蔵庫』等完備されている。

＊製品は、生アーサをパック詰にして、100g／200円で現在村内、学校給食等に利用されて

いる。生協販売へ向けて商談中である。

6. 問題点

(1) 養殖生産部会のメンバーが、一本釣と兼業しているため収穫等養殖管理が十分出来ない状況にある。

(2) 村の土地改良事業に伴う、赤土対策が漁協側と十分につめられてなく、降雨のたびに漁場が汚染される等、村との対立が見られる。

(3) 処理加工場が整備される等、量産体制に入っているので、販路の開拓、マーケッティング等積極的に進める必要がある。

(4) 収穫機の使用による網の糸切れ、俗に根と言う付着部分の混入が見られることで、収穫後の選別作業に支障を来たしているため改善の必要がある。

(5) 生産部会と漁協婦人部との係わり方等、今後、意見調整する必要がある。

渡名喜村特産

自然の香りいっぱいの生アーサ

要冷凍

アーサ汁の作り方（1人分）

生アーサ	10g	ダシ汁（花かつお）	200cc
とうふ	40g	しょう油（うすロ）	3cc

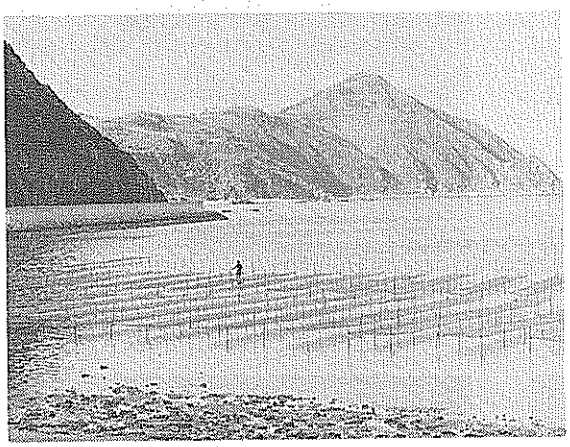
※アーサを汁わんに入れ、だし汁をかけるだけでおいしいアーサ汁が出来上がります。

栄養価（100g中）

たんぱく質	16.6g
脂質	1.0g
カルシウム	570 mg

ビタミンA, B_1, C含有

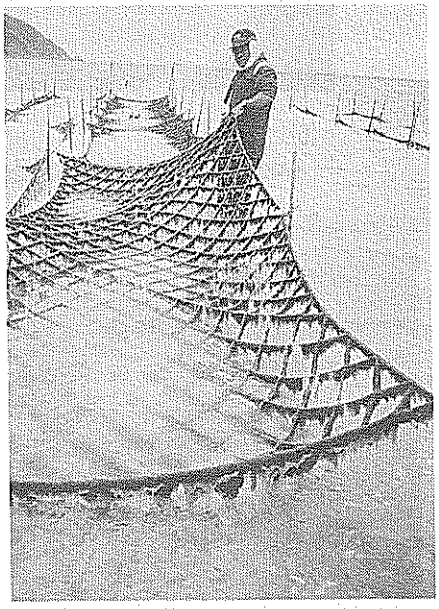
渡名喜村漁協アオサ生産部会
沖縄県渡名喜村1997
TEL (098)989−2427



(1) 渡名喜村漁協東側養殖場

9月採苗開始

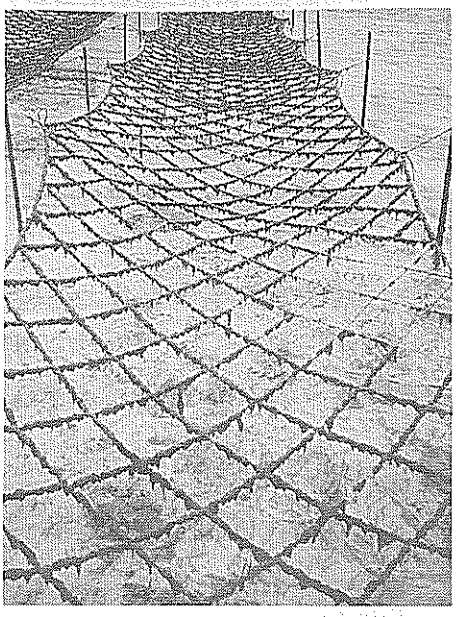
(2) 同上養殖場の採苗風景



(3) 収穫風景

平成7年度は、3回収穫された。（生）で2トン生産

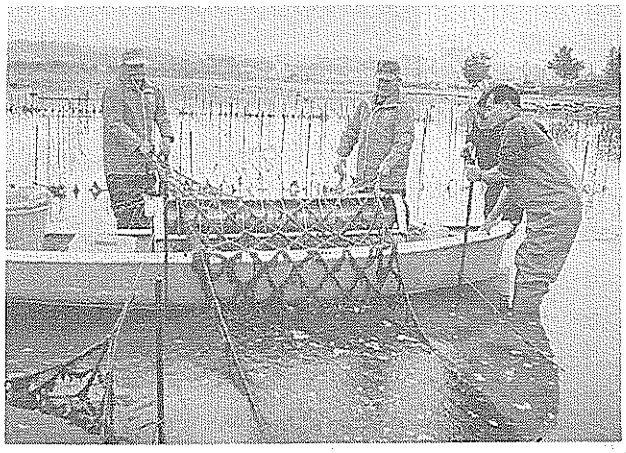
(4)
北中城ヒトエグサ養殖場



(7)
各地の養殖状況
Ⓐ本部では２年連続不作であった。

(5)
イマムラ式、ノリ摘機による収穫風景

Ⓑ赤チャケ現象と言われるのは
「シオミドロ」の胞子の群体なのか。



(6)
同摘機の取り扱い講習会のため、渡名喜漁協長初め生産部会長、同副部会長来場

(8)
与那城村　池美漁港北側での養殖風景